

第3章 これからの10年間をつくる新たな取組



むうるほうらしゃプロジェクト

「むうるほうらしゃ」＝みんな喜ぶ

【プロジェクト内容】

自転車レーンなど自転車を利用しやすい交通環境づくりを行い自転車の活用を推進することで、町民の健康増進を図るとともに、車から自転車への移動手段の移行による環境負荷の低減を図ります。また自転車によるゆっくりとした滞在型観光を推進し、観光振興や交流拡大を促します。観光で町を訪れる人々も、この町に住む町民も、自転車を利用することで今まで見過ごしていた町の景色や自然に目を向け、ゆっくり町を移動することで、心豊かな空間と時間を創出します。そして、新たなサービスや暮らしを楽しく豊かにできる施策を生み出していきます。



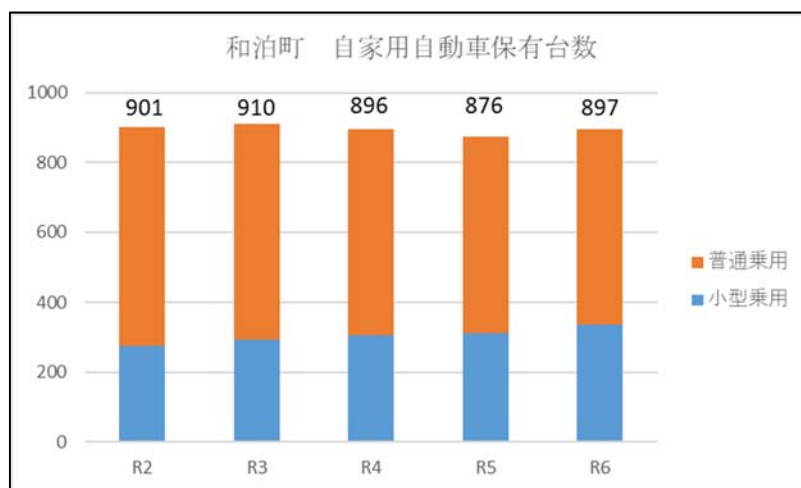
【未来の暮らし】

観光地や集落内に自転車レーンや自転車休憩所が設置され、自転車利用に関する情報発信がされるなど自転車を活用しやすい環境ができました。観光客も移動の選択肢が増えるとともに自転車専門で旅する新たな観光客の誘致に繋がりました。町の高齢者の自転車利用が促進され、体力向上や健康増進が図られ、高齢者が元気な町となり医療費の削減などの効果も現れています。自転車店や新サービスが生まれ、こだわりを持つ自転車好きの新しい集いが生まれました。自転車利用者に対するサービスを行う商店も増加し、にぎわいをみせています。自転車を活用した遊びやイベントも開催され、多くの人の趣味や楽しみが広がりました。町内に設置された自転車休憩所は、親子連れなど様々な人々が集う憩いの場となり心豊かな活動の拠点となりました。また、多くの町民が自転車を活用することで温室効果ガス削減効果も生まれ、和泊町は環境にやさしい町として広く知られるようになりました。



【課題】

車移動が主流の和泊町では、少しの距離でも車で移動するため、健康面にも課題があります。昨今、全国的に話題になる高齢者による自動車事故も、今後の高齢化社会を見据えると、和泊町でも無視できる課題ではありません。車優先の和泊町においては、子どもと一緒に安心して自転車に乗れる環境が少ないとの意見もあります。環境問題の側面から見ても、温室効果ガス排出量削減のため、自転車の活用が重視されています。現状、自転車に触れる機会が少ないことから、自転車利用のきっかけ作りが喫緊の課題となります。



【メリット】

- ・ 自転車を日常的に使うことで、町民の運動不足を解消し健康増進が図られ、医療費の削減につながります。
- ・ 自転車に関連した事業が新たに生み出され、新サービスを開始する事業者が増え、自転車を中心とした産業の活性化が期待されます。それに伴い、仕事や雇用も増え、移住者にも活躍の場が広がり人口増加への足掛かりにつながります。
- ・ サイクリング大会のほか、各種イベントが活発に行われ、町民の趣味や楽しみが増えるとともに、島外より参加する旅行者の増加も見込まれ、それにより交流が活性化します。
- ・ 車で通りすぎていた場所に、自転車休憩所などが整備され、憩いの場が形成されることで、人々が集い、交流が深まり、楽しむ機会が増加します。
- ・ 多くの人々が自転車を使うことで自転車の通行に対する注目や意識が高まり、通学で使う子どもたちの安全も高まります。
- ・ 自転車利用の促進により、自動車利用が減ることで温室効果ガス削減効果が高まり環境負荷の低減につながります。

